

## 平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	調査発刊事業「TAKART EXTRA EDITION」の刊行
事業主体 (連絡先)	TAKART (タカート)
事業区分	地域協働の推進に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	2,400,000 円 (うち支援金: 1,762,000 円)

### 事業内容

TAKART ではこれまで、町の魅力を探し冊子「TAKART」に掲載してきた。この経験を活かし、総合的な「高森町の本」づくりを、中学生・高校生・若者を含む町の人・団体と協働作業で行った。

特に中高生については、町を知り興味をもつ契機とするため、中学生、高校生それぞれ自分たちの頁(特集頁)を設け、目に見え、かつ残る学びの機会を創出することができた。

完成した冊子は町内全戸等に配布し、広く町の魅力を発信できた。

### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

①協働作業を通し、町の新たな宝を発掘できた。また町内の人々が町の意外なこと、町の面白さに目が向く契機となった。

②中高生、若い世代との冊子を作るための活動や編集を通し、つながりができた。中高生や若者の、町への関心が高まった。

### 今後の取り組み

冊子(TAKART EXTRA EDITION)で掲載した町の宝は、実際に足を運んでみることでより魅力を感じられることから、次世代町民や若者に向けて、冊子(TAKART EXTRA EDITION)をテキストとして活用した町内めぐりツアーを検討・企画し、ツアーの実施に向けて活動を展開していきたい。

※自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



TAKART 調査隊

#### 【目標・ねらい】

- ①冊子づくりを通し、町を知り町に興味をもつ学びの機会をつくる
- ②全戸配布し、多くの人に町の魅力を発信する

#### ※自己評価【B】

【理由】若い世代との関係性が構築できた。また、全戸配布したことで、今までにない町の魅力を発掘・発信できた。今後は作成した冊子を町内めぐりツアー等に活用していきたい。